



## 閉校に寄せて

「挨拶ができる、掃除ができる、時間を守る立中生」

第19代校長 岡崎 能治

生徒数の減少や財政事情等々の要因により、立江中学校が坂野中学校と統合し、新たに南中学校として生まれ変わるということを聞いたときは、非常に残念でなりませんでした。

3年間の在職期間中を振り返ってみますと、自然に恵まれた抜群の教育環境のもと、素晴らしい生徒たちに関われたことが昨日のこのように思い出されます。平成22年度は、県の確かな学力の育成にかかる実践的調査研究の指定を受け、阿波っ子すだち（巣立ち）宣言プロジェクトに取り組みました。「挨拶ができる、掃除ができる、時間を守る立中生」というスローガンのもと、生徒たちのめざましい活躍がありました。徳島県中学校少年の主張弁論大会で最優秀賞（学校創立以来三人目）、県中学校駅伝競走大会で男女ともに上位入賞。また、生徒会を中心としたボランティア活動では、ミニ88カ所での桜の苗木を植林したこと。そして、東日本大震災が起きたとき、生徒たちは懸命に募金活動を行い、見舞金を被災地に送金しました。立江中学校の生徒たちの真摯な生き方を目の当たりにしたような気がして、胸が熱くなったことを覚えています。まさに、知・徳・体の調和のとれた、教育の原点とも言うべき姿がそこにはありました。

ある先生が、中学校ではなかなか教育の結果が出ないのが現実なのだが、立江中学校では手間をかけて真剣に取り組んだら、その思いを生徒たちがよく理解して、しっかりと成長していく姿に出会える、それが楽しいと話していました。まさにその通りで、教師冥利に尽きる思いをさせてくれるのが立江中学校の生徒たちです。

優秀で穏やかであり、それでいて果敢に目標に立ち向かう生徒たち。PTAや地域の方々の惜しみない協力のもと、教職員の教育活動へのたゆまぬ努力を常を感じながら勤務できましたことに今さらのように感激しております。

さようなら、立江中学校。

ありがとう。立江中学校。

